

病理診断学〈F2〉

オーガナイザー

人体病理学 教授 村田 晋一

教 員 名

教授	村田 晋一	講師	小島 史好
助教	岩橋 吉史	助教	高橋 祐一
助教	岩元 竜太	助教	松崎 生笛
学内助教	三笠 友理奈		

I 一般学習目標

3年次において学習した病理学総論および各論の知識を元に、臨床における病理診断学を学ぶ。すなわち、まず、ヒト疾患の分類、病因・病態、病理所見（肉眼所見および組織細胞所見）、疫学を含めた臨床所見を理解した上で、病理診断の実際を学ぶと共に、病理学が疾患の病態の理解や臨床的治療戦略にどの様に関わるかを理解する。

II 個別学習目標

A) 病理学総論的事項

1. 病理学とはどのような学問であるかについて述べるができる。
2. 形態学的な変化を表現する病理学総論の用語を定義に従って用いることができる。
3. 疾患の場としての人体各臓器や組織の正常基本構造と機能を説明できる。
4. 病理総論的疾患分類である①形態異常性疾患、②退行性疾患、③循環障害性疾患、④炎症性疾患、⑤非腫瘍性増殖性疾患、⑥腫瘍性疾患を説明できる。
5. 6つの病理総論的疾患分類をさらに先天性／後天性、あるいは機能状態に分けて亜分類できる。
6. 病理総論的疾患分類の各々について、病因・病態について病理総論的に述べるができる。
7. 病理総論的疾患分類の各々について、肉眼的および細胞・組織学的病理所見を述べるができる。
8. 病理学における研究手法について列挙し、説明できる。

B) 病理学各論的事項

1. 各臓器の疾患を病理総論的疾患分類法に基づいて分類できる。
2. 各疾患の病因・病態を述べるができる。
3. 顕微鏡やバーチャスルスライドを使用して、組織標本の観察ができる。
4. 各疾患の肉眼的および組織学的病理所見や特徴を述べるができる。

C) 病理診断学的事項

1. 病理学における病理診断学の位置づけと役割について述べるができる。
2. 臨床における病理診断学の位置づけについて述べるができる。
3. 病理医と臨床医の役割分担や協調について述べるができる。
4. 細胞診断について、意義および組織診断との違いについて説明できる。
5. 病理検体の固定法の種類とその原理、実際の使用法について説明できる。
6. 術中迅速診断の意義と適応について説明できる。
7. 疾患の診断に至る病理診断の過程を組み立てることができる。
8. 疾患を肉眼的および顕微鏡的に観察し、病的所見を指摘できる。
9. 病理診断学における特殊染色、免疫組織染色、分子病理学的解析、電子顕微鏡的解析について、その種類と適応について説明できる。
10. 各疾患の疫学を含めた臨床所見の特徴を病理所見と関連付けて述べるができる。
11. 各疾患の治療戦略立案における病理診断の役割について述べるができる。
12. 病理解剖の意義を説明できる。
13. 病理解剖カンファレンスに参加し、臨床病理相関を解析できる。

III 教育内容

1. 臨床において、病理診断の役割が大きい疾患についての講義.
2. 病理解剖症例を用いたClinico-Pathological Conference (CPC).
3. 代表的疾患について、バーチャルスライドを用いた実習.

IV 学習および教育方法

学習： 病理診断学の内容は広範囲に渡るため、講義・実習に加えて、不足する知識については下記推薦図書（特に「標準病理学第6版」および「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版」）を参考に自習してもらう。

講義： 病理診断演習における講義はスライドやプリントなどを併用して行い、実際の症例のデータを示しながら参加型講義を行う。必要に応じてレポートや小テストを課す。

実習： 病理診断実習では、各学生が、バーチャルスライドを用いて、疾患の組織所見の観察やスケッチを行う。実習後、必要に応じてレポートやスケッチの提出、小テストを課す。

V 評価の方法

1) 復習試験

第一回の講義時間内に、3年生において学習した病理学の知識の習得を確認するための試験を行う。下記の教科書（特に「標準病理学第6版」）に記載されている中で、特に重要な病理学的知識を有していることを前提に問題を作成する。原則として画像問題を含む選択問題の形式で行う。疾患名は英語表記とする。

2) 定期試験

講義および実習の内容に加えて、臨床的知識を踏まえた上で、「標準病理学第6版」に記載されているレベルの病理学的知識を問う問題を出題する。原則として画像問題を含む選択問題の形式で行うが、場合によっては記述問題の形式で行う。画像問題は、実習内容や「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版」の中で主たる疾患の組織所見を理解しているレベルを求める。疾患名は英語表記とする。

3) 追試験

定期試験の成績不良者については、追試験を1回のみ行う。選択問題、実習問題、あるいは記述問題の形式で行う。

最終判定は、講義及び実習への出席、レポート/スケッチ、小テストや復習試験を含む全ての試験の点数を加味して総合的に行う。

正当な理由なく講義の出席が70%以下の者、および実習を1回でも欠席した者は、不合格とする。

VI 推薦する参考書

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| ○ 標準病理学第6版 | 医学書院 |
| ○ カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断第7版 | 医歯薬出版 |
| ○ 組織病理アトラス | 文光堂 |
| ○ Newエッセンシャル病理学 | 医歯薬出版 |
| ○ 集中講義病理学 | メジカルビュー |
| ○ ロビンス&コトラン病理学アトラス | エルゼビア・ジャパン |
| ○ 新病理学総論、各論 | 南山堂 |
| ○ 新病理学入門 | 南山堂 |
| ○ Robbins Pathologic Basis of Disease | W. B. Saunders Company |
| ○ Pathology | J.B. Lippincott Company |

講義日程表

病理診断学

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	R3.9.7	(火)	4	病理診断学総論(確認試験)	人体病理学	村田
2	R3.9.7	(火)	5	病理診断学総論(確認試験)	人体病理学	村田
3	R3.9.9	(木)	4	病理診断学総論	人体病理学	村田
4	R3.9.9	(木)	5	病理診断学総論	人体病理学	村田
5	R3.9.14	(火)	4	病理診断学講義(1)	人体病理学	岩橋
6	R3.9.14	(火)	5	病理診断学講義(1)	人体病理学	岩橋
7	R3.9.16	(木)	4	病理診断学講義(2)	人体病理学	小島
8	R3.9.16	(木)	5	病理診断学講義(2)	人体病理学	小島
9	R3.9.21	(火)	4	臨床における病理診断学	人体病理学	外来講師
10	R3.9.21	(火)	5	臨床における病理診断学	人体病理学	外来講師
11	R3.9.29	(水)	4	病理診断学講義(3)	人体病理学	小島
12	R3.9.29	(水)	5	病理診断学講義(3)	人体病理学	小島
13	R3.10.7	(木)	4	病理診断学講義(4)	人体病理学	岩元
14	R3.10.7	(木)	5	病理診断学講義(4)	人体病理学	岩元
15	R3.10.14	(木)	4	病理解剖診断講義	人体病理学	高橋
16	R3.10.14	(木)	5	病理解剖診断講義	人体病理学	高橋
17	R3.10.18	(月)	4	病理解剖診断実習	人体病理学	高橋／三笠
18	R3.10.18	(月)	5	病理解剖診断実習	人体病理学	高橋／三笠
19	R3.10.19	(火)	4	細胞診講義	人体病理学	松崎
20	R3.10.19	(火)	5	細胞診講義	人体病理学	松崎
21	R3.10.25	(月)	4	国試のための腎生検の読み方	人体病理学	岩橋
22	R3.10.25	(月)	5	国試のための腎生検の読み方／ 病理診断学講義(6)	人体病理学	岩橋
23	R3.10.28	(木)	4	細胞診実習	人体病理学	松崎／三笠
24	R3.10.28	(木)	5	細胞診実習	人体病理学	松崎／三笠